

専徳寺報

第400号

平成24年10月30日発行

浄土真宗本願寺派
専徳寺

専徳寺納骨堂受付中

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

永代経法要

—まことののみ法—

次の代に—

故人や先祖を縁として、みおとえ経を永代に、伝えていく大切な法要です。どうぞご参詣・お聴聞ください。

日時

11月9日(金)	昼 1時30分～3時30分
	夜 19時30分～21時
10日(土)	朝 10時～12時
	昼 1時30分～3時30分

一講師

本願寺布教使 深野 純一師 (下関市)

※初めてご来化賜ります。

●法座当番：通津中地区 ※宜しくお願い申しあげます。

●参拝セット (念珠・聖典・式章・聴聞カード) お持ちください。

●永代経法要供養はがき 去年につづき今年に年回忌の

あつたお家へ送ります。宜しく記帳

(故人名と回忌)

ください(お参り

ください)

きない方はお寺

ま

で郵送願いま

永代経法要供養はがき
～忘れない～

今年はお故人名 [] 様の
() 回忌です。あなたを偲ぶ
法要が本堂でつとまります。法要に
随喜のはがきをお供えます。

施主名 ()

お供えの言葉記入欄

法要中は尊前にお供えし法要後には外陣の道障板にお供えます。

念仏の歌「といき」 (黒田沐山居)

きて あそぶ やまの ことりら

……な おちそ

な にげそ

なむ なむ なむ なむ

汝も まうせ

われも まうさむ

称名か うれしき といき

とりに けものに

くさきに かよふ いきとかや

われの つたなさ

こゑ せめて おどろかせじな

ほそぼそと

といきの 称名

はしぼその なれと ともども

なむ なむ なむ なむ……

とりか となふる

おもか まうさる

お念仏はここに「うれしき吐息」と呼ばれている。うれしき吐息、その「いき」は山河大地と感応し、鳥獣草木、生きとし生けるものと一如にかよう吐息。山の小鳥を呼んで、彼女は「ほそぼそと」といきの称名 なむ なむ なむ」と語り合う。もとめざるに、なんとという円満功德のみちあふれた世界がここに開けてあることか (松原祐善)



如来・人・言葉 92

ただ除く

福岡・長明寺 花田 照夫

あらゆる人々をもらさずに、さとりの世
界へ救うと誓われた阿弥陀さまのご本願。

『仏説無量寿経』に説かれるこの本願文の
末尾には、「唯除ゆいじよ五逆ごぎやく誹謗ひぼう正法」とありま
す。「ただ、五逆の罪をおかし、仏の教え
を謗そしるものはその救いから除く」と但ただし書
きが添えられています。

なぜ、あらゆる人々をもらさずに救うと
誓いながら「唯除」(ただのぞく)とある
のでしょうか。親鸞聖人は、これこそ阿弥
陀さまの慈悲心のあらわれであると味わっ
ていきました。そのことを考えるとき、
私は大川毅さんが書かれた「負んぶ」とい
うお話を思い出します。

『私が四歳の夏だった。そのころ子ども
たちの間でビー玉遊びが流行り、近くの駄
菓子屋で売っていたビー玉が欲しくて仕方
がなかった私は、父がやっていた日本橋の
製氷問屋の店の手提げ金庫から、そっと小
銭を盗んだところを父に見つかった。』

「泥棒は交番に連れて行く!」

私の手から小銭を取り上げた父は、私を
負んぶして店を出て、百メートルほど離れた
街角にある交番のほうに歩いていった。
小さな私は、いかめしい顔にちよび髭ひげを生
やし、サーベルを下げた交番の中年巡査の
顔を思い浮かべていた。

「いやだよお、いやだよお!」

父の背中で私は必死に泣きわめいた。し
かし父はそのまま交番の前に行った。する
と交番の表にあの中年巡査が立っていた。

「...怖いよう!」

私は懸命に父の背中に顔を隠した。

「こんにちは、暑いですねぇ」

「そつですなあ」

父と巡査の声が聞こえた。

「坊や、お父さんに負んぶしてもらって
いいなあ」

という声に、私がハッと顔をあげると、巡
査がにこっと私の顔をのぞいていた。その
顔は予想に反してやさしい顔だった...」

(「今だから伝えたい別れからの出発」)

「泥棒は交番に連れて行く」

とわが子に罪を告げ、交番に向かうことを

秋の展示会

秋讃仏会より第二回「専徳寺秋の展示会」が始ま
りました。今年も多くの方が出展くださり、誠にあ
りがとうございます。

【出展者】

- 小方麻紀子(油絵)・川本 淳(墨彩画)
- 川本 照子(書)・小村 春江(油絵)
- 塩中 幸枝(手芸)・津秋 武彦(写真)
- 通谷 尚子(手芸)・通谷みえ子(陶芸)
- 長尾貴美子(刺繍)・広田 恵(塑像)
- 弘中 勝行(写真)・松村 寿昭(写真)
- 村岡 房江(布花)・村中 文行・恵子(油絵)



通してその罪の重さを知らせる父親。

これは決して、罪を犯したわが子を憎み、その子を家族から除かんとしてする行為ではありません。罪を恐れて泣きわめく子ども以上に、父親はわが子が犯した罪に対して涙しているのです。心で涙を流しながら、わが子に心からの反省を願っているのです。

阿弥陀さまの願いの世界もそうでした。

「唯除」（ただのぞく）とは、凡夫と真剣に向き合ってくださいる阿弥陀さまなればこそその罪の宣告であり、改悔への願いだったのです。

そして、「泥棒は交番に連れて行く」と罪を告げ、その罪に涙する父親が、わが子を負ぶって交番に向かう姿……これはわが子を真剣に愛する父親の慈しみのあらわれそのものであり、父と子が宿す真実がここにあるのです。ですから巡査はただ「お父さんに負んぶしてもらっていいなあ」とほほ笑むばかり。

親鸞聖人は「罪のおもきことをしめしめて、十方一切の衆生みなもれず往生すべしとしらせんとなり」（註釈版聖典644頁）と示されています。

私たち凡夫を罪悪深重であると見抜き

きった上で、必ず救うと誓われた阿弥陀さまなればこそその「唯除」（ただのぞく）。ここには慈悲の親さまである阿弥陀さまと凡夫が宿す真実があるのです。

自らの悪業煩惱を知り、阿弥陀さまの慈悲を味わうならば、私たちはただその阿弥陀さまの願いにおまかせするばかり。

そして、これこそが「南無阿弥陀仏」であり、「私は阿弥陀さまに負んぶされ、抱きしめられている者でありました」という驚きと安堵と歓喜のお念仏です。

妙好人の浅原才市さんは、

なむあみだぶつ

抱きとられ

とられて申す

なむあみだぶつ

と見事に歌いあげられました。

私たちの口からこぼれてくださる南無阿弥陀仏こそが、いつでも、どこでも、どんな時のあなたでも必ず抱きとりますという阿弥陀さまの慈悲の喚び声なのです。共々にお念仏を大切に味わっていきましよう。

本願寺新報より転載。（筆者は住職の弟）



立焼香台

9月13日に届きました。これからは起立の姿勢でお焼香いたします。どうぞ法座に足をお運びください。



寺内だより

阿弥陀様にいだかれて〔葬儀勤修〕

● 9月10日御往生

通津

西岡八千代様 (91)

喪主 西岡 佐富様

● 9月21日御往生

通津

山本千鶴子様 (84)

喪主 麻村 淳子様

● 10月10日御往生

通津

松本 重美様 (97)

喪主 松本 初江様

●ご恩を偲びて〔法事勤修〕(9月〜10月15日)

【長野】 小島豊様3、【通津】 新蔵淵智顕様7、里原弘己様50、村岡旭様50、松本敏嗣様7、松中伸様25、岡田道秋様7、河本知之様1、村重清涼様7、50・150、【保津】 水上三千代様3、赤崎穰様3、沖好忠夫様33、【青木】 浅田知明様25、広重範昭様25、重岡春雄様7、【黒磯】 弘中秀俊様17、

【藤生】 故野原信康様17、藤重益夫様25、【平田】 灰谷明夫様50、蔵田稔幸様13、【岩国】 森田和夫様1、【御庄】 藤中征治様25、【多田】 池田勉様7、【美和】 村本忠様100、【尾津】 村本希一様100

●おめでと〜うございます

法物下附式(入仏式)

● 9月15日 御三尊 (50代 金欄・藤)

通津 廣中 敏子様

● 9月21日 御三尊 (50代 金欄・藤)

通津 高橋 千賀子様

お給仕の慶び一入に存じます。

ついたち礼拝(月のはじまりをお寺から)

12月1日(土)

午前9時より45分間

●秋讃仏会法要余香 9月28・29日

法要初日、住職の弟が入寺した福岡県桂川町の



長明寺より38名の方がご来寺くださいました。「ここが若院さんの育ったお寺」とみな感動しておられました。仏婦の方が腕によりかけた岩国寿司の「お齋」には一同から感嘆の声が。午後からは一緒に成照星師のお説教を聴聞し、仏徳讃嘆のお念仏を喜びました。

【参詣者】

(28日) 昼座161名、

(29日) 朝座89名・昼座72名、

【お鉢米】

木村勲、広田尚敏、森田幸一、森上光義

【お供え】

藤井則枝、河村アサ子

【二報謝(通津南地区)】

白田初枝・村上君

代・村上知津江・呉

田初野・末広敬子・

米本詔子・村上黎

子・藤岡邦子・米村

美香・米本トモ子・

藤本千賀子・中田弘

子・神田宏・岡崎英

夫・田中稔

() は焼香者



▶初日のお齋づくりの方々

●ご報告いたします

山口教区仏婦大会

【日時】 10月3日

【場所】 ルネッサなごと

【参加】 河本多喜子、深井絹子

岩国組仏婦連盟秋季研修会

【日時】 10月17日

【場所】 専徳寺

【参詣数】 246名

【講師】 加藤信行師(鹿兒島)。わかりやすく、た

のしく、ありがた

いご法話を頂戴し

ました。「南無阿弥

陀仏ってどういう

意味?」「Don't

Worry.」



創作劇

親鸞聖人750回大遠忌記念講演

「親鸞 わが心のアジャセ」

【日時】 9月11日

【会場】 山口市民会館

専徳寺から11名参りました。

